

山口県建設技術センター

この情報誌は土木技術に関する様々な情報を山口県及び市町の土木技術職員の皆様方に提供するものです。

情報誌 Vol. 79

発行：一般財団法人 山口県建設技術センター 発行日：令和8年3月6日

【実務能力研修】現場研修課程（古川跨線橋整備工事 建設現場）



センター業務の紹介 ～OJT研修(工事管理業務)～
令和8年度の研修計画について
e-ラーニングについて
スキルアップ! ～資格取得のススメ～

センター業務の紹介 ～OJT研修(工事管理業務)～

はじめに

センターでは今年度より、県職員を対象とした「OJT研修」を開始しました。土木建築事務所の皆さまの中には、「毎週センターが若手を迎えに来ているけれど、何をしているのだろう?」「本当に役に立っているの?」と疑問に思われている方もいらっしゃるかもしれません。

そこで今回は、若手職員を対象とした現場研修「OJT研修」についてご紹介します。

この研修を始めた経緯

この研修の発端は、13年前の平成24年、技術管理課との協議において「センターで若手職員の現場技術指導ができないか」と相談を受けたことでした。背景には次のような課題がありました。

- ・所属職員のみで若手を指導する負担が大きく、十分な指導が難しい。
- ・若手職員も、忙しい上司や先輩に基本的な相談や現場同行を頼みにくい雰囲気がある。

このため、県庁技術職員OBが行う現場管理業務の一環として、いくつかの土木建築事務所で試行的に現場技術指導を行ってきました。近年は新規採用職員が増え、これらの課題がより顕著になったことから、今年度より全県的に「OJT研修」を本格実施することとなりました。

目的と実施方法

本研修の目的は、工事現場において施工段階の状況確認や工程把握を行いながら、実務に即した指導を通じて、技術職員としての資質向上と現場技術力の強化を図ることです。

実施にあたっては、センター職員（現場指導員）が工事現場に同行し、

- ・施工プロセス全体の確認
- ・段階確認
- ・監督業務のポイント解説

などを行いながら、現場で必要となる技術力を習得できるよう助言します。

また、他の監督職員が担当する現場を見学することで「現場を見る力」を養うとともに、研修生自身の担当現場では立会等を通じて対応力を高めてもらうことを狙いとしています。

ある日のOJT研修の様子

研修生には土木建築事務所に集合していただき、現場指導員がセンター車両で現場へ向かいます。移動中は、研修内容に加え、日頃の業務や職場のこと、世間話などを交えながらコミュニケーションを図っています。計画当初は現場集合案もありましたが、この車中での対話も研修の重要な一部と考えています。

現場到着後は、まず工事体制（工事看板）の確認を行い、図面を用いて工事内容を説明します。安全管理や積算内容と現地状況の照合も行います。砂防堰堤工事や急傾斜事業など、これまで馴染みの薄い施設についても、現物を見ながら説明することで理解が深まり、記憶にも残りやすくなります。



現場に着いたら、図面で施工内容を確認



コンクリートの状況を把握する着目点を解説

センター業務の紹介 ～OJT研修(工事管理業務)～

時には研修生や指導員の失敗談が話題に上ることもあり、また現場で不具合に遭遇することもあります。これらは貴重な学びの機会として活用しています。



河川工事現場の状況把握と意見交換



工事用道路兼締切、大型ブロック積について現場を見ながらの質疑応答

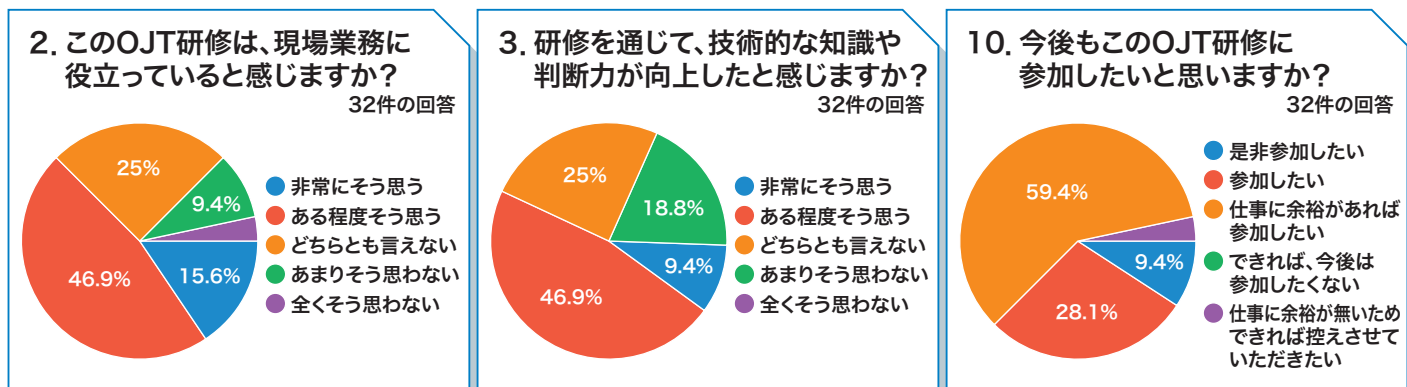
研修の手ごたえ(アンケート結果)

9月中旬に研修生向けにアンケートを実施したところ、研修内容については概ね好意的な評価をいただきました。一方で、自由記述では次のような意見も寄せられました。

- ① 施工説明をより詳しく聞きたい。現場監督任せではなく、指導員から直接説明してほしい。
- ② 研修生同士の交流も重要であり、複数人での研修を希望する。
- ③ 一つの現場を深く学べる研修が良い。

これら研修生の皆さまの声を大切に、より実りある研修となるよう継続的に取り組んでいきます。

研修生向けアンケート調査(R7.9月実施)(一部抜粋)



設問2について、「非常にそう思う」と「ある程度そう思う」の肯定的な回答が約63%、どちらとも言えない等の中立的～否定的が37%と、肯定的な評価がやや優勢でした。設問3では、肯定的な回答が56%、中立的～否定的が44%と、半数以上が研修の効果を実感しておられます。また、設問10では、「是非参加したい」から「余裕があれば参加したい」までが97%と、今後の研修継続に対して非常に前向きな意向を示していただきました。

おわりに

本研修には、現場での気づきとしてすぐに役立つ内容もあれば、経験を重ねる中で徐々に実感が深まっていく学びもあります。とりわけ後者については、5年後、10年後に研修生が現場で判断を下す際、「あのときセンターの指導員が言っていたことはこういう意味だったのか」「ここは注意が必要だ」と思い出してもらえるような、将来につながる力になることを期待しています。

今年度から本格的に始まったOJT研修ですが、研修生や上司の皆さまからのご意見を取り入れながら、より良い研修へと発展させていきます。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和8年度の研修計画について

令和8年度の研修計画が決まりましたので、日程および内容についてお知らせします。なお、「研修対象者」欄の経験年数については目安として示しています。受講資格ということではありませんので、興味のある研修へより多くの方の積極的な受講をお願いします。

また、研修日程については変更となる場合がありますので、最新情報については、(一財)山口県建設技術センターウェブサイトや各研修の案内で確認をお願いします。

令和8年度 研修計画総括表

研修区分	研修課程名	研修内容	研修対象者※1
職務基礎研修	新任者(前期)	・土木技術職員の心構え ・設計書の構成と歩掛表の見方(工事) ・設計書の作成演習(工事) ・工事現場実習 ・土木事業と工事監督	新規採用土木職員等
	新任者(後期)	・業務成績評定制度 ・地質調査について ・施工管理と工事検査 ・設計書の構成と歩掛表の見方(業務委託) ・設計書の作成演習(業務委託)	
	災害復旧基礎	・災害と災害復旧制度について ・災害復旧工法(河川、道路) ・査定設計書作成演習 ・模擬査定	
	CAD	・CADの概要 ・2DCADの操作演習 ・3DCADの操作演習	
	積算システム	・土木積算システム演習 ・設計書の作成演習	
実務能力研修	設計積算	・積算概念 ・設計積算の留意点 ・土木積算演習 ・小構造物設計演習 ・積算書作成ミス想定事例	経験5年程度の職員等
	道路実務	・道路法 ・道路事業の流れ ・道路構造令等の解説 ・道路事業の実施 ・縦横断設計演習	
	下水道実務	・下水道事業の概要 ・下水道の基本計画 ・下水道管渠の設計 ・下水道の維持管理 ・各種管渠工法 ・工法演習	
	港湾実務	・港湾海岸事業の概要 ・事業執行の留意点 ・津波対策 ・港湾関係基本法令 ・港湾海岸施設の維持管理 ・港湾関係災害復旧事業 ・設計演習	
	施工管理(基礎)※2	・施工計画 ・品質管理 ・施工管理 ・写真管理 ・工事現場の安全確保 ・工事監督の留意事項 ・工事関係書類の作成マニュアル	
	施工管理(コンクリート品質確保)	・配合設計 ・目視評価 ・コンクリートの練り混ぜから打込み ・締固めの体験実習 (1日研修を2週間で実施)	
	予算・法令実務	・土木予算編成のしくみ ・契約、決算事務の流れ ・社会資本整備総合交付金の制度 ・入札、契約制度の改正 ・建設業法 ・廃棄物処理法 ・会計検査の動向 ・土地収用法概略	
	測量・土質地質調査	・測量事務の流れ ・測量技術の紹介 ・土質、地質調査の種類と方法 ・土質、地質調査の計画、調査方法 ・土質地質調査の事例紹介と調査計画演習	
	検査実務	・検査(工事・業務委託) ・成績評定制度(工事・業務委託) ・模擬工事検査	
	災害復旧工法	・河川・海岸災害復旧工法 ・道路・橋梁災害復旧工法 ・改良復旧工法 ・復旧工法演習	
建築工事監理	・公共建築とは ・公共建築工事の発注者の役割等 ・公共建築工事標準仕様書 ・公共建築工事監理指針等及び工事監理 ・公共建築工事の完成検査等		
現場研修	・現場施工法 ・現場管理の実際 ・現場施工事例 ・事例研究		
転勤対象者技術※2	・設計・契約変更ガイドライン ・建設業法に基づく適正な施工体制 ・入札、契約制度の改正 ・設計書作成の留意点 ・総合評価入札方式	県の土木職員等	
専門能力研修	道路施設設計	・舗装設計 ・舗装設計演習 ・歩道の構造とバリアフリー ・自転車通行環境整備 ・交通事故対策の立案と設計 ・道路附属施設的设计演習	経験10年程度の職員等
	斜面对策	・法面对策工の選定 ・安定解析の種類と選択 ・アンカーの設計施工 ・法面工の設計 ・緑化工法	
	仮設工設計	・仮設工設計概論 ・仮設工の設計及び演習 ・土留工、仮締切工の設計	
	地盤対策	・地盤改良工法の概要 ・地盤改良設計 ・軟弱地盤の概要 ・設計演習 ・杭基礎の種類及び選定 ・杭の安定計算 ・耐震設計	
管理能力研修	積算技術	・設計・契約変更等ガイドライン ・設計書作成の留意点とヒヤリ・ハット事例	経験20年程度の職員等
	ICT施工管理	・ICT活用工事の概要 ・ICT活用工事の現場実習	
公益目的事業	橋梁設計・維持管理研修※3	・橋梁長寿命化計画 ・橋梁構造の基礎知識 ・橋梁補修・補強設計 ・橋梁点検実習	県・市町の土木職員等

※1：研修対象者の経験年数については目安であり、受講資格を限定するものではありません。

※2：e-ラーニングで実施します。 ※3：橋梁設計・維持管理研修は、公益目的事業として実施しています。

令和8年度 研修実施日程表

※研修会場：セミナーパークほか

月	研修項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
e-ラーニング	(実務) 転勤対象者技術	令和8年4月1日～令和9年3月31日																																			
	(実務) 施工管理(基礎)	令和8年7月1日～令和9年3月31日																																			
4					土曜日	日曜日						土曜日	日曜日							土曜日	日曜日					土曜日	日曜日										
5	(基礎) 新任者(前期)		土曜日	憲法記念日	みどりの日	こどもの日	振替休日			土曜日	日曜日									土曜日	日曜日																
	(基礎) 災害復旧基礎																																				
	(基礎) 積算システム																																				
6	(基礎) CAD																																				
	(実務) 災害復旧工法																																				
7	(専門) 斜面对策																																				
	(管理) 積算技術																																				
	(実務) 建築工事監理																																				
	(実務) 港湾実務																																				
8	(実務) 道路実務																																				
	(専門) 道路施設設計																																				
9	(実務) 予算・法令実務																																				
	(実務) 測量・土質地質調査																																				
	(実務) 施工管理(コンクリート)																																				
10	(実務) 設計積算																																				
	(専門) 仮設工設計																																				
	(実務) 下水道実務																																				
11	(公益) 橋梁設計・維持管理																																				
	(実務) 検査実務																																				
12	(基礎) 新任者(後期)																																				
	(管理) ICT施工管理																																				
	(実務) 現場研修																																				

※日程は変更になることがあります。最新情報はセンターHPをご覧ください。※日付のマークに()が付いている研修は、センターの独自研修及び公益目的事業研修です。

e-ラーニングについて

働き方改革（多様で柔軟な働き方）に対応するため、令和7年度よりe-ラーニングを試行しています。令和8年度も引き続きe-ラーニングを試行していきますので、ご紹介します。

1. e-ラーニングとする研修

①令和8年度 実務能力研修 転勤対象者技術課程

【主な対象者：県の土木技術職員（令和8年4月1日付け人事異動職員）】

②令和8年度 実務能力研修 施工管理（基礎）課程

【主な対象者：県及び市町の土木技術職員で経験が5年程度の職員】



2. e-ラーニングの学習方法

（一財）山口県建設技術センターウェブサイト「県・市町職員限定ページ」にe-ラーニング動画閲覧用ページを用意しており、そこにアクセスいただくことで動画の視聴が可能です。

これにより、皆様の学びたい内容を都合の良い時間帯に何度でも学習することが可能となりますので、積極的な活用をお願いします。

なお、e-ラーニングとした研修に関しては、出欠確認は行わず、修了者名簿の作成は行いません。

また、動画視聴後は、アンケートへの回答にご協力をお願いします。



「限定ページログイン」をクリック



ID・パスワードを入力して「ログイン」をクリック



「e-ラーニング動画」をクリック



全ての動画を視聴する場合はコチラ（全ての動画を順番に再生します）

個々に動画を視聴する場合はコチラ（該当する動画を選択していただき再生します）

アンケートの回答はこちら

テキストはこちらからダウンロード

ヨロシクお願いします

今後の参考とするため、e-ラーニング動画を視聴された後は、アンケートへの回答にご協力をお願いします！



スキルアップ! ~資格取得のススメ~

土木職の公務員にとって、資格は業務上必ず必要というものではありません。しかし、資格取得は土木技術職員として技術力を研鑽するには恰好の方法です。資格取得に向けて習得した知識は、協議時により深い議論ができるなど、結果的に公共サービスの向上に繋がります。

令和8年度の主な資格試験日程をまとめましたので、資格取得にチャレンジしてみたいかどうか？

ちなみに、以下に挙げたいずれの資格に合格した場合、山口県建設技術協会の会員は協会から受験料の助成を受けることができます。

令和8年度 資格試験日程

試験・資格名称	申込受付期間	試験日		申込書類提出先・問合せ先
技術士補(第一次試験)	R8.6.10~R8.6.24	R8.11.22	—	(公社)日本技術士会
技術士(第二次試験)	R8.4.1~R8.4.15	R8.7.19 (総合技術監理部門 の必須科目)	R8.7.20 (総監部門を除く技術部門 及び総監部門の選択科目)	(公社)日本技術士会
1級土木施工管理技士	R8.3.23~R8.4.6	R8.7.5(一次)	R8.10.4(二次)	(一財)全国建設研修センター
2級土木施工管理技士 (一次前期)種別:土木のみ	R8.3.4~R8.3.18	R8.6.7	—	(一財)全国建設研修センター
2級土木施工管理技士 (一次後期ほか)	R8.7.8~R8.7.22	R8.10.25	—	(一財)全国建設研修センター
1級管工事施工管理技士	R8.5.7~R8.5.21	R8.9.6(一次)	R8.12.6(二次)	(一財)全国建設研修センター
2級管工事施工管理技士 (一次前期)	R8.3.4~R8.3.18	R8.6.7	—	(一財)全国建設研修センター
2級管工事施工管理技士 (一次後期ほか)	R8.7.14~R8.7.28	R8.11.15	—	(一財)全国建設研修センター
1級造園施工管理技士	R8.5.7~R8.5.21	R8.9.6(一次)	R8.12.6(二次)	(一財)全国建設研修センター
2級造園施工管理技士 (一次前期)	R8.3.4~R8.3.18	R8.6.7	—	(一財)全国建設研修センター
2級造園施工管理技士 (一次後期ほか)	R8.7.14~R8.7.28	R8.11.15	—	(一財)全国建設研修センター
1級建設機械施工技士	R8.2.16~R8.3.13	R8.6.21 (一次・二次筆記)	R8.8月下旬~9月中旬 (二次実技)	(一社)日本建設機械施工協会
2級建設機械施工技士	R8.2.16~R8.3.13	R8.6.21 (一次・二次筆記)	R8.8月下旬~9月中旬 (二次実技)	(一社)日本建設機械施工協会
地質調査技士	R8.4.10~R8.5.10 (予定)	R8.7.11	—	(一社)全国地質調査業協会連合会
土地区画整理士	R8.5.7~R8.5.21	R8.9.6	—	(一財)全国建設研修センター

受験資格や試験日程等の詳細については、各問合せ先への確認をお願いします。

編集 後記

今年度も残り僅かとなりました。今年の冬は寒暖差が激しく、皆さん体調を崩されていないでしょうか。(一財)山口県建設技術センターでは、県及び市町の土木技術職員を対象として、「長期研修計画」に基づく技術研修を年間20講座程度実施しています。

現在の長期研修計画は、令和3年度から令和8年度までの6年間の計画で、令和8年度が計画の最終年度となります。そのため当センターでは、新たな長期研修計画の策定作業に取り掛かりました。次期長期研修計画の策定にあたっては、最近の土木建設行政を取り巻く環境の変化や時代のニーズなどを反映し、より充実した研修内容にしていきたいと考えています。研修課程等の設定にあたっては、アンケート調査などを通じて皆さんの意見をお伺いさせていただくことを検討していますので、その際は、ぜひご協力をお願いします。

【Eメール】 info@yama-ctc.or.jp
 【ホームページ】 https://www.yama-ctc.or.jp
 〒753-0077 山口市熊野町1番10号
 ニューメディアプラザ山口ビル(NPYビル)10階
 一般財団法人 山口県建設技術センター
 情報誌編集委員会 宛
 【TEL】 083-920-1233
 【FAX】 083-920-1288